白と黒

柊葉一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
白と黒

【Ｎコード】
Ｎ５０３２Ｄ

【作者名】
柊葉一

【あらすじ】
夫婦の愛の形のあり方を描く。彼女が何をしたのかは、想像するばかり。

白い壁、白いカーテン、白いベッド。もう長いこと、彼はこの部屋にいる。
私は彼がもうすぐ死ぬことを知っていたし、彼は自分がもうすぐ死ぬことを覚悟していた。
けれど私たちはお互いにロマンチックなことが好きだったので、こんなシチュエーションは二度とないとばかりに、果たせもしない、ベタで甘い約束を交わすのだった。
「ねぇ、私を置いて、いなくなったりしないわよね？」
部屋の色に侵されたように、彼の手も顔も白い。申し訳程度の温度しかない、彼の手を握って、私は懇願するように言う。
彼は枕に重たい頭をのせたまま、「当たり前だよ」とかすれた声で呟く。
「僕が死ぬものか。ましてお前を残してなんて、馬鹿なこと。」
「絶対、約束よ。観たい映画だって私、あなたと観るために我慢しているんだから。……早く、元気になってね。」
彼の手を握る力を一層込めた。涙が滲んで、視界が歪む。彼の優しい目も。
そんなとき、彼は優しく、そして少し困ったような顔で、私の頭を撫でようと弱々しく、その手をかざしてくれる。ゆっくりゆっくり手が伸びてきて、ほんの少し、私の髪をさらう。
「大丈夫、……もう少ししたら、何もかもうまくいくよ、……きっと。」

それから間もなく彼はこん睡状態になり、目覚めない日々が続いた後、そのまま静かに息を引き取った。
彼の人柄からか、葬式には多くの人が参列し、彼の両親、友人や

職場の人たちもみんな涙を流し、彼を偲んだ。もちろん、私も泣いた。

今、白い部屋には誰もいない。

私は長い間彼を担当してくれた先生に挨拶をし、彼の荷物をまとめてその部屋を後にした。そしてそのままの足で、映画館へ行った。

ずっと彼のために観るのを我慢していた映画を、立て続けに三本観たが、ずっと観たいと思っていたはずなのに、どれもあまり集中して観れなかった。隣の席に、彼の着ていた衣服などが詰め込まれた大きな紙袋が、暗がりの中でやけに白く、数時間前に立ち去った、もう戻ることのない白い部屋を思い出させた。

映画館を出ると雨が降り出していた。

しばらく灰色の空を眺めながら、これからのことを考える。

予定通り、仕事は辞めよう。しばらくしたら、彼が私に残した、たくさんのお金が入る。

ふと、いつかの彼の言葉を思い出した。

……もう少ししたら、何もかもうまくいくよ、……きっと。

もしかしたら、彼は知っていたのかもしれない。

「確かに、うまくいったわ。」

彼はきっと知っていて、その上で私を愛したのだ。私なんかよりもずっと。ロマンチストだったから。

雨足が強くなる中、私は泥を蹴るようにして、彼のいない家を目指した。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5032d/

白と黒

2010年12月15日14時03分発行